

## 学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

研修参加者

所属(学部(研究科)・学年): 歯学部歯学科5年

氏名: 田島理那

授業科目名	歯学研究 I
研修先(国・地域) 滞在地	インドネシア スラバヤ
研修期間	平成29年9月18日～平成29年9月29日
<p>〔研修を通じて得た成果〕</p> <p>今回、インドネシアのスラバヤにあるエアランガ大学歯学部において12日間の研修を受けました。エアランガ大学では主に1～4年生の細菌学や解剖学などの実習の参加や5年生の臨床実習の見学を行いました。インドネシアでは歯学部は5年制で、4年間で生理学や細菌学、矯正歯科学、口腔外科学などの座学や実習があり、残りの1年間で臨床実習を行います。しかし、この臨床実習は日本のように先生方が治療しているのを見学、介助するのではなく、学生自らが患者を診察、診断し、治療するという能動的なものでした。例えば、矯正の分野では一人で二人の患者を治療しなければなりません。もちろん、学生が何かわからないことがあれば、先生方に助言をもらいますが、基本的に学生一人で患者を最初から最後まで診るというスタイルでした。診察スペースにいる学生一人一人が自信をもって治療している様子を見て、同じ5年生なのに立派だと感じました。エアランガ大学の授業は朝7時から始まり、基本的に3時間授業でした。エアランガ大学の学生たちは朝早くであっても活発に先生の質問に答えたり、一生懸命実習を行ったりしていました。実習は冒頭に先生が説明し、あとは学生だけで実習を進行していくというもので、学生の自主性に驚いたとともにこのくらいの積極性が大事なのだと勉強になりました。授業の合間や放課後の時間でも、廊下や中庭にグループで集まってディスカッションをしている学生や、勉強をしている学生が多い様子がとても印象的でした。エアランガ大学の学生たちは努力家であると同時に大変親切で、廊下ですれ違ったときに挨拶をしてくれたり、実習で同じグループになった時にはたくさん話しかけてくれました。多くの学生たちと交流することができ、とても刺激的な研修になりました。また、インドネシアでは歯科医師国家試験が年に数回あることや、エアランガ大学のあるスラバヤには多くの歯科医師がいるが、他の島には少ないといったインドネシアの歯科の環境についても知ることができました。研修を通じてインドネシアという同アジアの国でありながら全く違う文化、空気にも触れることができました。</p>	
<p>〔研修後の抱負〕</p> <p>今回、エアランガ大学への海外研修に参加し、自分の英会話能力と積極性が欠如していたことを感じました。初めの1週間はどんなことを話したらいいのか、自分の英語は間違っているだろうかなどと考えてしまい、受け身のコミュニケーションしか取れませんでした。後半になるにつれ、自分から学生に対して積極的に話しかけることができるようになりました。もう少し英語力と積極性があれば、研修初期からもっと多くの人や先生たちとコミュニケーションをとることができたのではないかと残念に思いました。これを機にもっと英語で話せるように努めたいです。また、今までは自分から先生に質問をしに行くことや話しかけに行くといったことはあまりしてきませんでした。エアランガ大学の学生の姿をみて、これからは少しでも疑問に思ったことを先生に質問をしたり、友達と情報を共有したりと積極性、主体性をもってこれからの学習や実習に取り組んでいこうと思いました。</p>	

## 学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

研修参加者

所属(学部(研究科)・学年): 歯学部歯学科5年

氏名: 小森 彩加

授業科目名	歯学研究 I
研修先(国・地域) 滞在地	インドネシア スラバヤ
研修期間	平成29年9月18日～平成29年9月29日
<p>〔研修を通じて得た成果〕</p> <p>私はインドネシアのスラバヤにあるアイルランガ大学で10日間の研修を受けました。この研修を通して、日本との文化や医療の違い、大学のカリキュラムの違いを知ることができました。研修では、学生実習への参加と、病院見学を行いました。実習では、学生がグループに分かれ説明を受けた後、学生がグループ討論をしながら学ぶというスタイルでした。そのため、学生の自主性が日本よりも高いと感じました。講義は朝7時から始まり、夕方講義が終わった後も友達と集まり討論していた姿を見て、日本の学生の勉強をさせられているという感じではなく、積極的に勉強に取り組んでいる姿が印象的でした。インドネシアの教育制度では、一番若くて15歳で大学に入学し学ぶことができ、講義を受けているほとんどの学生が10代ということにも驚きました。また、付属病院では、臨床実習生が診察から治療まで行っており、分からないことがあれば指導教員に聞くことができ、学生では治療が難しいと判断したら大学院生が治療を行うという制度でした。学生診療ということで患者の診療費が安く、学生は日本よりも患者に触れる機会が多く、勉強意欲の高い学生が多かったです。</p>	
<p>〔研修後の抱負〕</p> <p>まず感じたのは、自分の英語力がもっと高ければ、スムーズにコミュニケーションが取れて、多くの人と深く繋がれたらと思う。歯科の技術の面では、日本の方では高いように思えたが、学生の勉強に対するやる気が日本とは大きく違い、隙間時間や夕方講義が終わってからも学校で教科書を見ながら話している姿をよく見かけました。アイルランガ大学の学生の方が日本の学生よりも学習意欲が高く、これから臨床実習を行うにあたって、ただ参加するだけでなく少しでも自分のためになるように積極的に取り組んでいこうと思えた。また、アイルランガ大学は積極的に交換留学のプログラムを行ったのを見て、鹿児島大学がいかに関鎖的であるかを思い知りました。後輩のためにも大学の外に出て学ぶ機会を増やしたいと思った。</p>	

## 学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

研修参加者

所属(学部(研究科)・学年): 歯学部歯学科5年

氏名: 柏木孝文

授業科目名	歯学研究 I
研修先(国・地域) 滞在地	インドネシア スラバヤ
研修期間	平成29年9月18日～平成29年9月29日
<p>〔研修を通じて得た成果〕</p> <p>今回の研修を通じて、私は本当に多くのことを学び、経験することができました。その中でも、私自身の中で最も印象に残ったこととしては、“英語”で海外の学生と話し、毎日を過ごしていくということです。アイルランガ大学の学生はほとんど全員が英語を話すことができ、私たちは滞在期間中英語で基本的に会話していましたが、アイルランガ大学の学生に比べ、私自身の英語力はまだまだで片言でしか話すことができないという感じでした。「もっと自分の英語力が上達し、アイルランガ大学の学生を含む海外の学生と多くのことを討論し合ったり、より深い話ができるようになれば、どれだけ楽しいだろうか。」そんな思いが、この研修期間を通じて、自分の心の中に湧き起ってきました。今回の研修で学んだこと、経験したことはたくさんありますが、私自身の中で最も収穫があったのは、もっと英語を勉強し、将来、海外に留学して日本にいただけでは学べないことを学ぼう、という気持ちが生まれたことです。今では、少しずつではありますが、英語を勉強するようにしています。</p> <p>また、他にも、アイルランガ大学での基礎実習や臨床実習の見学に参加させてもらったことは、とても大きな財産になりました。鹿児島大学と同じ点や違った点がわかったり、アイルランガ大学や海外の大学ではこういったシステムになっているのかと、本当に勉強になりました。最も大きく異なった点としては、臨床実習生が患者さんを2～3人担当し、実際に治療しているということでした。日本では、患者さんの治療を行ってはいけないので、とても驚きはしましたが、早くから患者さんの治療を自分で行えるということで少し羨ましく感じました。そして、文化や食事についても色々経験し、学ぶことができました。インドネシアではイスラム教徒の人が多く、お祈りの時間が1日に数回あって、その時間になるとイスラム教徒の人はお祈りをします。日本では全くないことだったので、宗教の違いを学びました。また、食事についても、初めは自分の口に合うか心配ではありましたが、食べてみると本当においしく、研修の終わりの頃には、おかわりをするくらいでした。最後に、この研修に参加してとてもよかったと思えたことは、友達がたくさんできたことです。英語があまり上手ではない私に、学生皆が気軽に話しかけてくれて本当に嬉しかったです。このつながりをこれからもずっと大切にしていこうと思います。一生の宝物です。</p>	
<p>〔研修後の抱負〕</p> <p>今回の研修を終えて、一番強く思ったことは英語をもっと頑張ろうということです。歯学の勉強と同じくらい大切であり、今後必ず重要になってくると思います。歯学の勉強の合間に、英語も勉強して上達させ、将来は留学したいです。また、今回自分が経験したことを下の学年の学生にもしっかり伝えていき、できるだけ多くの学生が今回のような研修に参加するようになればいいなと思います。私自身も、今回の研修だけで終わらず、他の海外研修にも積極的に参加していきたいです。</p>	